

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学専攻
平成 27 年度修士学位論文

学籍番号	M941401
氏名	植木 努
学位	修士（理学療法学）
指導教員	原田 和宏
副指導教員	河村 顕治・井上 茂樹
論文題目	健常高齢者における後方歩行評価の特性と身体機能との関連
要旨 (200 字以内)	介護予防の対象である地域在住の高齢者における後方歩行の特性と身体機能との関連について検討した。介護予防対象者において、後方歩行評価は前方歩行よりも特徴を抽出しやすく、動作の反復による習熟特性がある可能性があり、後方歩行速度は転倒リスクの中でも特にバランス能力に関連した指標であることが示唆された。本研究で得られた結果は、身体機能を評価する方法として後方歩行の有用性を示唆する基礎資料になると考える。

学籍番号	M941402
氏名	大川 直美
学位	修士（理学療法学）
指導教員	原田 和宏
副指導教員	川上 照彦・川浦 昭彦
論文題目	慢性期脳卒中患者の大腿直筋と中間広筋の筋量・筋内脂肪量と歩行自立度との関係
要旨 (200 字以内)	慢性期脳卒中患者の大腿直筋と中間広筋の筋量と筋内脂肪量に関して、歩行自立度別における差異を検討することを目的とした。その結果、健常高齢者と比較し、歩行介助者の麻痺側と非麻痺側下肢の大腿直筋と中間広筋の筋量の減少と筋内脂肪量の増大は著明であった。歩行が自立していない慢性期脳卒中患者は、二次的な身体組成の変化に起因する有害な帰結が起こるハイリスク者であるということを認識しておくことが重要である。

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学専攻
平成 27 年度修士学位論文

学籍番号	M941403
氏名	大西 邦博
学位	修士（理学療法学）
指導教員	河村 颯治
副指導教員	川上 照彦・井上 茂樹
論文題目	表面筋電図解析を用いた人工膝関節全置換術前後における筋活動機能回復の検討
要旨 (200 字以内)	表面筋電図を用いて，人工膝関節全置換術前後（術前・術後 2 週・術後 4 週）における歩行時の経時的な筋活動機能の回復過程を量的・質的側面から明らかにすることを目的とした．膝伸展筋力や筋活動は術前と術後 2 週で有意に低下し，術後 4 週で回復する傾向であった．歩行立脚荷重応答期の周波数パワースペクトル帯域の累積パワーの特徴として速筋線維が優位である内側広筋だが遅筋線維を優位に活動させている傾向であった．

学籍番号	M941404
氏名	清木 宏徳
学位	修士（理学療法学）
指導教員	森下 元賀
副指導教員	水谷 雅年・中嶋 正明
論文題目	立位での随意的な重心移動における身体外部への注意喚起は運動学習の効果を促進させる
要旨 (200 字以内)	<p>[緒言] External focus (EF) と Internal focus (IF) について運動学習の効果と適応について検討した。</p> <p>[方法] EF 群と IF 群の 2 群に分け，Cross test を用い矩形面積の経時的な変化と身体機能，認知機能，注意機能との関連について調査を行った。</p> <p>[結果] EF 群の方が IF 群よりも矩形面積の値が増加していたが，身体機能，認知機能，注意機能との間に相関は認めなかった。</p> <p>[結論] Cross Test では，EF を用いることで運動学習が促進的に作用することが示唆された。</p>

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学専攻
平成 27 年度修士学位論文

学籍番号	M941405
氏名	原 大樹
学位	修士（理学療法学）
指導教員	井上 茂樹
副指導教員	秋山 純一・森下 元賀
論文題目	視覚情報の制限が健常者における歩行時の運動学的，電気生理学的要素に与える影響
要旨 (200 字以内)	視覚情報の制限が歩行に与える影響について，運動学的要素に加えて筋の量的，質的变化の知見を得ることを目的とした。対象は健常者 20 例として，アイマスクを装着して閉眼した歩行と装着せず開眼した歩行における関節角度と大殿筋上部線維，内側広筋，前脛骨筋，内側腓腹筋の筋活動を比較した。結果，閉眼によって歩行スピード，ケイデンスは有意に低値を示し，%IEMG および%パワーは有意に高値を示す時期が多く認められた。

学籍番号	M941406
氏名	藤川 純朗
学位	修士（理学療法学）
指導教員	佐藤 三矢
副指導教員	齋藤 圭介・平上 二九三
論文題目	回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の移乗動作自立に関連する因子の検討
要旨 (200 字以内)	回復期リハ病棟入院時においてベッドから車椅子への移乗動作に監視や介助を要する脳卒中患者を対象とし，回復期リハ病棟入院時に評価した項目と入院後 1 カ月間での移乗動作の自立可否との関連性を検討した。本研究における対象者では「認知 FIM」と「座位 FRT」が有意な変数として選択される結果となり，このことは「認知機能」や「座位バランス」が「移乗動作の自立」に影響を与えることを示唆するものである。

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学専攻
平成 27 年度修士学位論文

学籍番号	M941407
氏名	山科 俊輔
学位	修士（理学療法学）
指導教員	原田 和宏
副指導教員	河村 颯治・元田 弘敏
論文題目	保存療法中の変形性膝関節症患者を対象とした動画観察による歩行異常性評価の妥当性と信頼性
要旨 (200 字以内)	変形性膝関節症患者を対象に、活動制限と歩行異常性の関連を検討する上での基礎的検討として、動画観察による歩行異常性評価項目の選定、基準関連妥当性、検者間・内信頼性の検討を行った。観察による歩行異常性評価の数量化に伴い、関連性や評価の信頼性を担保することが可能となった。加えて、膝関節で起こる異常性は隣接関節に影響を及ぼすことを示唆し、膝関節以外を含む歩行異常性は活動量減少に繋がる可能性がある。